

(環境) 城南小学校 5年
身近な自然環境の、生き物調べを通して
環境に対する考えを深める子どもの育成
4月～ 3月(70時間)

1 ねらい

子どもたちは、教室の電燈をこまめに消したり水を節約して使ったりするなど、省エネやエコに取り組んでいる。しかし、自分たちの住んでいる地域の自然環境がどのような状況なのかは知らない。つまり、地域の環境を守らなくてはいけないという切実感もないまま、省エネやエコ活動に取り組んでいるのが現状である。

そこで、本年度の5年生は、山の学習で岡崎少年自然の家での自然環境に触れるだけでなく、地域の田や学区を流れる矢作川・占部川での生き物調査などを通じて、学区の自然環境の現況を知り、よりよい城南学区の自然環境を目指して、追究することにした。

2 実践の概要

①私たちの学区の自然環境で生息している生物の種類や生息場所、特徴を調べよう。

学区の自然環境の現況を知らない子どもたちに、地域の方の協力をいただき、身の回りの自然環境の現況を把握させるため、田植えの体験を行った。5月、田植え前の、田んぼをお借りし、生き物探しを行った。

子どもたちは、カエル・アメンボ・タニシ・チョウチョ・トンボ・テントウムシ・ヤゴ・アリ・クモなど多くの生物を探すことができた。また、子どもたちは、「色々な生き物を見ることができたので学ぶことが出来ました。」「今回は3種類しか見つけられなかったけど、次は、もっと見つけたいです。」「田んぼで生き物を探すのが楽しくなりました。また生き物を探したいです。」という感想を持った。これらのことから、自分の身近な場所で生き物を探すことに興味・関心を持ち、学区の自然環境の現況を把握しようとしていたことが伺われる。



「気持ちいいね」

—水を入れた田で、生き物を探す子どもたち—

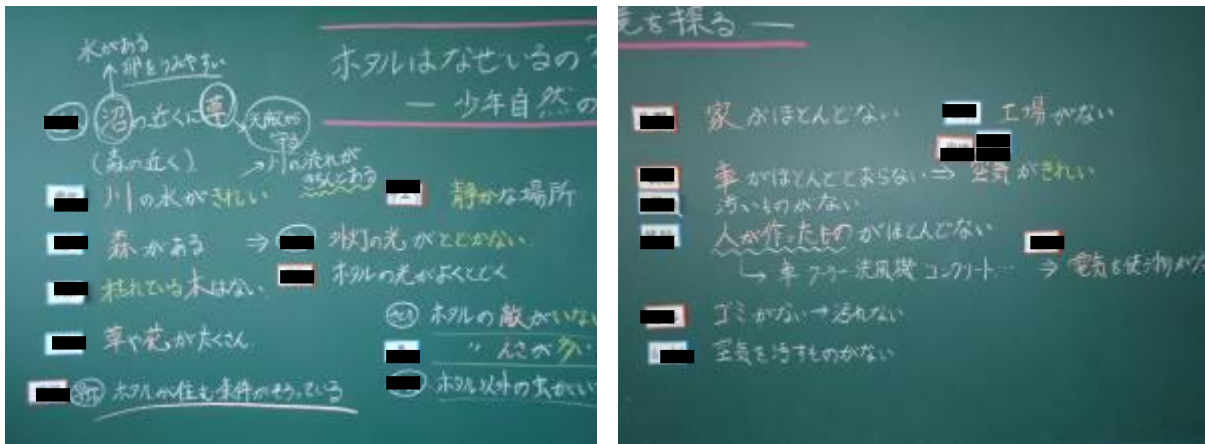
②私たちの身近な環境について調べ、生物のつながりや動きを考えよう

田植え体験を通して、地域の水田に住む生き物に興味・関心を示した子どもたちは、さらに、学区の自然環境を調べようと意欲を高めていた。そこで、学区より、自然環境の状況がもっと良いところと比べさせようと考え、山の学習を利用した。山の学習に行くにあたって、岡崎市少年自然の家の自然環境をしっかりと見ることを課題として設定した。また、城南小学校区の自然環境と、どこがどのように違うのかを見てくるという課題も設定した。

山の学習では、1日目のキャンプファイヤーの時に、たくさんのホタルを見ることができた。たくさんのホタルを見た子どもたちは、とても感動している様子であった。中には、「こんなにたくさんのホタルは初めて見た。」「手の上でホタルを見たのは初めて。」とつぶやいている子どもたちもいた。山の学習でのホタル観察の体験は、子どもたちにとって、とても貴重なものになった。

山の学習から帰り、最初の総合的な学習の時間の学習では、子どもたちのホタルを見た体験をもとに、岡崎市少年自然の家の自然環境がどのようなようであったかを振り返る時間を作った。「ホタルはなぜいる

の？「少年自然の家の環境を探る」という学習課題を設定し、岡崎市少年自然の家の自然環境がどのようなであったかを思い出させ、学区の自然環境と比較した。そのワークシートには、川の水・空気の新鮮さや騒音がないこと、車の通りが少ないなどの意見が書かれ、授業で発表された。中には、ホテルが住める条件と少年自然の家の自然環境が同じという意見を持っている子もいた。



「ホテルはなぜいるの？—少年自然の家の環境を探る」の板書

③私たちの身近な環境について話し合う

これまでの学習で、岡崎市少年自然の家の自然環境について振り返った子どもたちは、少年自然の家の環境が、ホテルの住む条件であることに気がついた。そこで、自分たちの考えを持たせるために、「城南学区にホテルが住むことはできるだろうか」という課題を設定し、授業で話し合う場（通称：ホテル裁判）を設けた。この話し合いの中身は、今の城南学区の自然環境が、ホテルの住める条件になっているのかということであった。自分で調べてきた資料や、実際に学区に流れている占部川や矢作川の写真などを提示しながら自分の意見を発表する子どもの表情は真剣であった。



「城南学区にホテルは住めるのかな…」

—ホテル裁判の授業より—

話し合いの回数を重ねていくと、「他の人が写真を持ってきてくれたけれど、この自然環境でホテルが本当に住めるのかな」と思い、もう一度今の自然環境を調べたいと思いました。」という感想を持つ子どもがいたなど、友だちが提示した資料や話していたことに疑問を持ち、自分で調べ直す子どもたちが増えてきた。そして、身近な環境に対する考えを深めていった。

3 実践を振り返って

身近な場所での体験活動を通じ、そこで出会った生き物を調査していくことで、子どもたちは身近な自然環境に興味・関心を持った。また、「ホテル裁判」のように生き物を通して、自分たちの身近な自然環境について話し合う場面を設けることで、子どもたちは、環境に対する考えを深めていくことができた。課題としては、体験学習や「ホテル裁判」のような話し合いの時間がしっかりと確保できなかったことである。子どもたちの身近な場所での体験活動を増やし、その体験を通じて学んだことを話し合う場を多くしていくことが必要であると考えている。